

特集

地方創生と「道の駅」

国がすすめる地方創生の先駆けとして全国で発展を続ける「道の駅」。地域産業の振興、防災拠点、まちづくりなど、果たすべき役割は多種多様になっている。とりわけ北海道の「道の駅」は117駅に達し、全国の約1割を占めるまでになり、各地で特色ある取り組みが行われている。

本特集では「地方創生と『道の駅』」をテーマに、まずは筑波大学教授の石田東生氏と国土交通省北海道局の和泉晶裕氏に、現在の課題や今後の展望について語っていただいた。さらに、北海道の「道の駅」の最新事情を理解するため北海道開発局にお話を伺った。また、まちの情報発信基地であり、観光のゲートウェイとして発展を続ける道の駅「ひがしかわ『道草館』」の活動について、東川町長にお聞きした。

そして、平成28年4月に発生した熊本地震において、九州の「道の駅」がどれだけ重要な役割を担い、地域の人々の支えとなったのか、現地の具体的な取り組みと課題などについて、九州・沖縄「道の駅」連絡会のお話をまとめた。さまざまな形で「道の駅」に関わる皆様、利用する皆様が、これからの「道の駅」を考えるきっかけとなれば幸いである。

対談

地方創生と「道の駅」

筑波大学システム情報系 社会工学域 教授 石田東生氏
国土交通省 北海道局 地政課長 和泉晶裕氏

インタビュー

インタビュー1

インバウンド、観光、コミュニティ、防災 多角化する地域の拠点

国土交通省 北海道開発局 建設部 道路計画課 谷村昌史氏

インタビュー2

情報発信と地域連携の「広場」 道の駅「ひがしかわ『道草館』」

東川町長 松岡市郎氏

レポート

熊本地震と九州の「道の駅」

～地域の防災拠点として果たした役割～

九州・沖縄「道の駅」連絡会 事務局長代理 矢幡 弾氏

